



福智町出身の作曲家・河村光陽を顕彰する「協奏の庭」を背景に、音楽家たちが素敵な生演奏やコーラスを披露。会場に心地よさが広がる。



期間中は場内で特別展「福智 colors」も開催。町内に点在するすべての窯元の作品が一堂に会したのは、今回が初めて。各窯元が「福智」を色で表現し、福智町出身の書家・吉川晶先生の書が壁面を彩った。



地元の旬の農産物が並ぶことで人気の「上野の里ふれあい市」。10周年を迎えた感謝を込め、20日と21日に餅まきを開催。



上野焼協同組合加盟の13窯元が、常時作品を展示販売している上野焼陶芸館。期間中は、匠の技が光る秋の新作がズラリと並び、陶芸ファンたちを魅了した。



21日にはご当地グルメ「方城すいとん」が500食限定で振る舞われた。スタッフは福智山がデザインされた福智ブランドTシャツで町をPR。



期間中の土日は、福智の魅力を求める多くの人が、販売開始前から長蛇の列を作った。駐車場では県外ナンバーも多く見られ、9日間の総来場者は延べ1万5千人。

特集 おもてなし



坂田 順さん
亡き夫・政博さんがヤマの象徴を店名に掲げた「焼肉ポタ山」。貴重な炭鉱写真が店内に並ぶ。



水口 耕一さん・沙織さん
夫婦で「耕窯」を営む。耕一さんは北九州市出身、沙織さんは佐賀県出身。6年前から定住。

「地域への恩返しにと出店しました。初めてのお客様と直に接することで、気付かされたことも多くありました。改めて感じたのが、やはり、心が何より大切だということ。思いやりの気持ちがないと、商売は成り立ちません。何が喜ばれるのか、より満足していただくために何が必要か…そんな意見を話し合うことも楽しいんです」。

6年前に上野に移り住み「耕窯」を営んでいる水口耕一さん・沙織さん夫婦、今回初めて秋の窯開きに参加しました。「以前から上野の風景は魅力的でした

が、知人の紹介で移住した当初は、よそ者のわたしたちが、上野の里で上野焼でない器を作ることには不安を感じていました。しかし、開業直後から近所が気に掛けてくれて、温かいおもてなしに感動しました。地域が誇れる要素は「物」だけでなく「人」もまさにそうだと実感しました」と水口さん。今後の催しの展開にも期待を高めています。

資源と素材を生かし、新たな視点で「おもてなし」を考え、さらなる魅力を生み出そうとした今回のイベント。力を合わせて行動したことで交流や絆が生まれ「来客をもてなす姿勢」も育まれました。このような輪が広がれば、観光地としての基盤も固まっていきます。

魅力を凝縮したイベントで再認識し、創意工夫が育んだ「おもてなしの心」。協力と実働でもてなしの輪が広がる。

ならではの魅力が融合

みなさんは、各地の観光地を見て「この町にはああいいうものが無いから観光の町なんて無理」と思っていないでしょうか？

しかし、本当に必要なのは、むしろその逆。「他にもあるもの」ではなく「ここにしかない」という魅力です。

福智町には、豊かな自然の中で育まれた「食」と福智町が誇る「上野焼」、童謡作曲家・河村光陽の生誕地として醸成された「音楽」があります。そんな福智ならではの要素を凝縮した、福智でしか実現できないイベント「クッチ・フアインド・フェスティバル」が、10月20日～28日、上野の里ふれあい交流会館を舞台として、盛大に開催されました。

福岡県の助成事業で実施され、12の団体・店舗で組織された「福智町地域観光戦略イベント実行委員会」が主催。青柳一夫委員長は、開会式で「町内外の多くの人に、福智町の良さを発見してもらいたい」と期待を語りました。

町の良さが解ると、町への愛着が生まれます。そうして育まれた「郷土愛」は、いわば「おもてなしの心」の原点。ふるさとを誇りに思えてこそ、来訪者をあたたかく迎え、地域の良さを伝えたいという気持ちにもつながるはずです。

期間中、町外からも多くの人が福智町に注目。延べ1万5千人を迎えた経験は、主催する側にとっても大きな収穫となり、観光の町としての可能性を肌で感じられた9日間となりました。

魅力の創出

福智らしさ輝く魅力の融合で再発見した郷土の誇り

ずっと近くにあるものほど、大切さに気付かなくももの。しかし「人を呼び込む力を秘めた財産」は、実はこの町にも多く眠っているのです。その魅力にわたしたちが気付く、理解することで、「おもてなし」という新たな魅力が創られます。



例年「春の陶器まつり」と「秋の窯開き」の際に13窯元で開催されている空くじなしのスタンプラリー。今回は町内の全27窯元が協力し範囲も拡大。その分、豪華な景品が数多く並んだ。



フル回転のゲスト店舗前など多くの行列ができた会場。設営や撤収、駐車場整理やバス運行など、期間中200人のスタッフが運営を支えた。



28日限定で福智妄想FM「慶子の部屋」を開局。福智町出身のおおぎけいこさんが、FM放送番組さながらの痛快的トークで会場を盛り上げた。



アサヒビールが協賛したノンアルコール&ビールと、それに合う「バリウマ」な逸品がテーマの28日は、地元18店と、県外から宇都宮餃子(栃木)、たこやき元祖津屋(大阪)、からつバーガー(佐賀)、中津からあげもり山(大分)が集結。上野焼ビアカップや福智ブランドの「ふくち☆リッチジェラート」など、完売が続出した。



27日の茶会は、茶陶として名高い上野焼の器でおもてなし。菓子は博多の名店「チョコレートショップ」の都城未鈴さん(福智町出身)特製のレモン風味の生チョコ。

